

## 図書館利用者と小竹図書館館長との懇談会

- 1 日時 令和元年 11 月 2 日（土） 午前 10 時～11 時半
- 2 場所 小竹図書館 2 階 会議室
- 3 参加者 利用者 15 名  
図書館 3 名  
(館長、副館長、副業務責任者)
- 4 テーマ 「①私が期待する小竹図書館のサービスとは②小竹図書館 30 周年に向けて」
- 5 配布資料 (1) 次第  
(2) 図書館利用案内  
(3) 令和元年度練馬区教育要覧（図書館部分抜粋）  
(4) 練馬区立図書館報「図書館だより」  
(5) 小竹図書館広報紙 すてんどぐらす（10 月号、11 月号）  
(6) 催し物（11 月～開催予定）のご案内  
(7) アンケート用紙
- 6 次第 (1) 小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者の挨拶  
(2) 図書館職員紹介  
(3) 参加者自己紹介  
(4) 小竹図書館について  
(5) 懇談  
・ 私が期待する小竹図書館のサービスとは  
・ 小竹図書館 30 周年に向けて  
(6) 質疑応答

### 令和元年度 図書館利用者と館長との懇談会 議事録

#### 1 小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者の挨拶

それでは、定刻になりましたので、そろそろ始めたいと思います。皆さま、小竹図書館の利用者懇談会にお越しいただきまして、ありがとうございます。本日は率直なご意見をお聞きして、小竹図書館の今後の図書館運営に反映させていきたいと考えております。ざっくばらんにお話しいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(館長・運営担当者の挨拶割愛)

## 2 図書館職員紹介

館長 副館長 副業務責任者 テルウェル東日本マネージャー

## 3 参加者自己紹介

## 4 小竹図書館について

最初に小竹図書館について少し説明させていただきます。

小竹図書館は、平成 26 年度より指定管理者制度が導入されまして、私どもハートフルサポート共同事業体が運営・施設管理を任されることになりました。ハートフルサポート共同事業体とは、NTT グループのテルウェル東日本と、練馬区に本社を置く五十嵐商会がジョイントを組んで立ち上げたもので、互いの強みを生かし、図書館の運営管理については代表企業のテルウェル東日本が、施設管理に関しては五十嵐商会が担当しております。これまで 5 年半の歳月のなかで、私どもが力を注いできたのは、地域の特性を知ること、地域のみなさまと積極的に交流を図って、図書館にどんなことを望んでいらっしゃるのかを肌で感じること、そして一人でも多くの方々に図書館を利用していただくことでした。

そこで私たちが考えたのは小竹図書館の事業です。著名な作家さんや、有識者を講師にお招きする一方で、地域の方々になじみのある、地域在住あるいは地域で活躍する方々に講師をお願いして事業を開催することでした。たとえば、今日も来ていただいています、地域包括支援センターさんのご協力のもと、「認知症サポーター養成講座」を開催したり、地域在住の有識者を招いての「英語の本とあそびうた」、「傾聴ボランティア入門講座」「歴史講座 そば猪口と江戸の粋」、そして本日ご参加いただいています地域在住のノンフレクションライターさんに講師をお願いした「赤ちゃんポストと呼ばないで 慈恵病院の取り組み」、また「知っているようで知らない薬のお話」、それから武蔵大学のミツバチ園を見学する「江古田ミツバチプロジェクトを見に行こう」あるいは栄町敬老館さんとの連携事業の高齢者を対象とした「絵本のよみきかせ講座」、あるいは近隣の大学、日大芸術学部の落研を招いての「小竹寄席」、小竹町会さん主催の八雲神社での「こたけあそび」に参加させていただいて、よみきかせをしたり、リサイクル絵本の配布などを行ってきました。

また、学校と連携しまして、中学生の職場体験の受け入れや、小学校での本の探検ラリー、ブックトーク、あるいは ひきこもりの若者たちの就業支援を行うねりま若者サポートステーションと連携してインターンシップ生の受け入れ、あるいは、大学の司書課程で学ぶ実習生の受け入れなどを行ってきました。

施設面におきましては、図書館を明るくしようと花いっぱい運動や、ゴーヤ栽培による夏場の緑のカーテンなどを展開してきました。

次に、小竹図書館の現況についてご説明させていただきます。所蔵する資料は、今年 3 月末時点で、図書が 86,600、雑誌 2500、CD などの AV 関連が 7900 と、合計約 97,000 点です。

また年間の来館者数は約 23 万 8,000 人、昨年は 310 日開館しましたから 1 日あたりに平均すると 770 人ぐらいが来館されていることになります。もちろん、季節や天候によって変動がありますが、夏場の土日、子どもたちが夏休みの宿題に来るようなときは来館者も 1 日 1300 人ほどになることがあります。年間の個人の貸出点数は約 38 万 7000 点です。3 つの大学に囲まれている文教地区にあるので、芸術関係の図書、CD の収集に力を入れています。隣の力行会の留学生が利用することもあるので外国語の図書の収集にも配慮しています。外国語図書といえば、小竹図書館には練馬区が友好都市を結ぶオーストラリアのイプスウィッチ市から 2 年に 1 回、英文の本が入ってきます。また隔年で練馬区がイプスウィッチ市に寄贈するという文化交流を続けています。一階の絵本コーナーには、小竹町在住だった絵本作家の馬場のぼる先生のご遺族から寄贈された絵本を並べた馬場のぼるコーナーもあります。

本日はこの懇談会のテーマを「私が図書館に望むサービスとは」にしました。また小竹図書館は来年、開館 30 周年を迎えます。節目の年ということで、みなさまには日ごろ、図書館を利用していただいている中でお気づきになられていることや、30 周年の記念事業でこんなことしたらどうかというご意見をお聞きできたらと思います。頂戴したご意見は、今後の事業立案に役立てたり、将来に向けて図書館の運営に活かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 5 懇談

- ・私が期待する小竹図書館のサービスとは
- ・小竹図書館 30 周年に向けて

**図書館** それでは、小竹図書館にどんなサービスを望んでいらっしゃるのか、お一人ずつご意見をお聞かせいただければと思います。それと 30 周年に向けて、こういった事業をしてほしいといったようなご意見も伺えればと思います。順番にお願いできますか。

**利用者** 望むというほどではないのですが、本人たちには確認をとってないのですが、今年たまたま日本大学芸術学部の絵本づくりのサークルの学生たちと知り合いまして、結成して 2～3 年らしいですけど、頑張って作っています。今日も日本大学芸術学部のお祭りで、そういったコーナーをやっているということで、行ってみようと思うのですが、そういった学生たちが作った本は、図書館に置かせていただくことはできるのでしょうか。

**図書館** 所蔵するとなると、区の基準もありますので、すぐにはお返事できないのです。ただ、2 階に地域コーナーがありまして、そこになら置くことができるかと思います。公共図書館にふさわしいものか確認させていただくことになりますが、普通の絵本だったら、たぶん大丈夫だと思います。あるいは絵本コーナーに期間限定の特

設コーナーを作って、展示することもできるかもしれません。

**利用者** 地域の学生の活動は文化の一つかなと思うので、私もお協力して、図書館と学生たちをつなげればいいなと思います。また、相談させてください。

**利用者** 私事で恐縮ですが、今年子どもが生まれまして、来週、妻がブックスタートに子供を連れてくる予定です。そこで質問ですが、ブックスタートに参加した親子は絵本を2冊いただけると聞いていますが、たくさんある中から自分の好きな本が選べるのか、または選書していただいたものをもらえるのでしょうか。

**利用者** 年度ごとにブックスタートの会が選んだものをお渡ししています。もし同じものをお持ちでしたら、前年度の絵本と交換することも可能です。

**利用者** そういうことなのですね。素晴らしいサービスです。小竹にこういう図書館があることはありがたい。またよろしくお願いします。

**図書館** ほかに、小竹図書館に望むこと、あるいは30周年の記念にこういったイベントをやったらどうかとかのご意見がある方はお願いします。

**利用者** 先ほどの方が話されていたように、地域とのコラボ、地域との催しものをやってくださっているのが、それはありがたいのですが、1回限りで終わらせるのはもったいないなと感じています。先ほど江古田市場の方が話していた、昔の江古田の話などは普段なかなか聞けないですね。話す機会もないです。だから、地域の人たちが図書館に集まって話をする中から生まれる、今日のこういう付き合いも大切だと思います。ここからふくれあがるというか、いろいろなものが生まれてくるので機会づくりになっています。それと、小竹図書館の30周年についてですが、図書館で企画される講演会などはとてもおもしろいものが多い、先ほど次に考えているイベントの話を聞いて、町会にも同じ講演会を回していただけたらと思っています。二番煎じじゃないですけど。

**利用者** 私は小竹に来てもう40年近く経ちますが、ずっと栄町で商売をやっていたので、毎日市場や商店街と自宅との往復だけでした。ですから小竹町の方は、ほとんど知りません。最近、小竹町会長の顔をようやく覚えたところです。

**図書館** 江古田市場でご商売されていたのですよね。いつぞや江古田市場のお話をうかがう機会がありまして。とてもおもしろいお話だったので、江古田市場の成り立ちやら最盛期の様子などを図書館で講演していただけないかなとお話しました。江古田市場の最盛期は何軒ぐらいのお店があったのでしょうか。

**利用者** 店の坪数が小さいこともあって、40店舗くらいありました。市場に行っても、細い通りがごったがえして、通れなかったほどです。

昔はどこもすごかったのです。最盛期は毎日15,000人ぐらいの客が来ていました。当時は、周辺に店がなく、八百屋、肉屋、魚屋といった、生鮮食品が揃っているのは江古田市場ぐらいしかありませんでした。保谷とか、氷川台からも市場に買い物に来ていました。

- 利用者** 小竹町は歴史が好きな人がすごく多いのです。ですから、江古田市場をテーマにした講演会などしたら放っておかないと思いますよ。
- 利用者** 今、ああなってしまうとほんと悲しくなります。みんな借地だったから、どうしようもないけど。お店を継ぐ人もいないので、大家さんに買い取ってもらっていません。ある意味、日本の縮図みたいです。
- 利用者** お伺いしますが、先ほど小竹図書館の年間来館者は 238,000 人と聞きましたけど、小竹町の住民はどのくらい来ているのかわかりますか。
- 図書館** 残念ながら詳しい内訳まではわかりません。来館者数は、入り口のところにあるセンサーでカウントしています。カウンターにいと、小竹町や栄町、旭丘にお住いの人が多いと感じます。
- 利用者** 小竹町民からみれば、小竹町の中心にこの図書館があるので、利用しやすい場所にあるといえます。それで、どのくらいの小竹町の人が利用しているのかなと、ちょっと思ったのです。申し訳ないのですが、私自身は普段あまり図書館を利用していないもので。それに今までは、小竹町会と小竹図書館はあんまり付き合いがありませんでした。ところが、今の館長になって、実は先日、小竹あそびの会場で館長から声をかけられたもので、これは懇談会に参加しなければならないかなという気持ちになりました。今日は、小竹小学校でも学校応援団っていうのがあったのですが、「図書館に行かなければ」とこちらの会議に参加したのです。
- 図書館** 八雲神社でお見掛けしたので、声をかけさせていただきました。小竹町会さんには図書館のイベントのポスターを長年貼っていただいています。町のなかでポスターを見てイベントに申し込んだという人も結構いらっしゃるので、とても感謝しています。
- 利用者** 広報の方法としては、掲示板と回覧板という 2 つがあります。ただ、町会としては、町内掲示板はあんまり読まれていないな、と感じています。回覧板を回すと、確実に見ると思います。回覧板のほうが効果的かもしれません。
- しかし、残念ながら、町会の会員数は、現在住民の 50% を割っています。回覧板は町会員にしか回らないので、そういう意味では半分の人は見えてない、というのが現状です。
- 図書館** 昨年、旭丘 1 丁目町会、旭丘 2 丁目町会にも広報をお願いしたところ、ポスターを貼っていただけになりました。やはり町の中にポスターを貼らせていただくと、いろんな方がご覧になられますので、これまで図書館を利用したことがない人を呼び込むことができます。また周辺施設、たとえば栄町敬老館や保育園などの施設にも貼っていただいています。
- 利用者** 30 周年記念のイベントでの企画案というほどでもないのですが、図書館だけでやると手間がかかって大変だと思うので、利用者さんもコンテンツにかかわるほうがよろしいのかな、と思いました。単純なよくあるアイディアなのですが、年表

を館内に貼っておいて、利用者が小竹図書館に対するそのときの思い出を付箋に書いて貼っていくだけでもおもしろいと思います。いろんな世代の利用者の小竹図書館に対する思いとか、「私にとっての図書館」などの感想が集まるのかなって思いました。あとは、こういう場があると交流が生まれるので、年表づくりとは別に、例えば30周年の対話の場というか、会合の場を設けて、その場で図書館について、図書館に対する話を語り合い、つながりをつくっていくのもありなのかな、と思いました。

**利用者** 小竹図書館の30周年はいつごろですか？

**図書館** 30周年を迎えるのは7月です。

**利用者** ちょうど夏休み。オリンピックもありますね。

**図書館** オリンピックと時期がかぶっています。しかし、記念イベントといっても、何か月に分けてやろうかと考えています。事業のコンテンツとしては歴史が有力です。あと「私の図書館」という角度で、子どもたちの思いを何らかの事業にできないかなと考えています

**利用者** 歴史ということでしたら、いっぱい神社があるじゃないですか。浅間神社のまわりに八雲神社とか武蔵野稲荷神社とか、近所にありますよね。歴史のなかでのそういった神社の成り立ちを知りたいなと気がします。それぞれ違いますよね、八雲さんは氏神さまだけど、浅間様は氏神にできないそうなんですけど、それがなぜなのか、そういうことが知りたいなと思います。多分（個人名省略）が、八雲の神主さんなので、一連のお話をしていただけるのではないかと思いますけど。私は聞きに行きたいと思います。

**図書館** またご協力をお願いします。

次は、高齢者施設の方からは何かご要望はありますか。

**利用者** 「図書館のサービスとは」というところで、私たちがもうちょっと頑張らないといけないなと思ったのですが。いま皆さんのお話を聞いていて、お子さん向けのイベントはたくさんあるのかな、と思いました。私は子育ても終わったので、お子さんからとか、お母さんたちからの生の情報がありません。半面、仕事柄聞いているのが、高齢者の方々の話です。高齢者の方は本当によく図書館に来ていますね。身近で聞いた話ですが、「自分が認知症かもしれない」と思って、図書館の人に、認知症のことを勉強したいと、「どの本から読んだらいいか」と相談したところ、アドバイスしてもらったそうで、今、司書の方に薦められた本を一冊一冊順番に借りて読んでいるということでした。このように自分が認知症かもしれないと思って調べる人もいるでしょうし、認知症になったらこういう風になるんだと、予備知識として先に取り込んでおいて、自分自身の変化を受け止めながら生きていく人もいます。やっぱり高齢になると、多くの方はだんだんと字が読みづらくなります。寝るのも早くなってしまう。だけど、若い人がパソコンをするように、高齢者は書

物で知識を学んでいくという姿勢を続けてらっしゃる方も多いので、図書館を頼りにされているのです。図書館にはそれぞれの思いがあって、活用しながら、寄席を楽しんだりされています。高齢になればだんだん外出が億劫になるものですが、頑張って図書館に行こうかなって、こういう催しがあるからちょっと行ってみようか、ついでにまた本を借りて読もうかなという流れになるのでしょうか。そういう高齢者の行動をよく分析して、私も何かご提案できたらなと思いました。今日の感想です。

**利用者** 早期に認知症を発見するテストですとか、練馬区では、結構いい冊子を作っています。これらの読みやすい小冊子がいっぱいあります。どこに相談すればいいのか、地域包括支援センターはどこにあるのかなどが、一目でわかるような作りになっています。それらを高齢者コーナーなどのかりやすいところに置くのも、ひとつの手じゃないかなと思います。

**利用者** 冊子のようなものもいいですね。長いものは読みたくないもの。

**利用者** パンフレットがいっぱいありますよ。私が練馬区の高齢者支援課に聞いてみますね。認知症カフェをやっているので、もらってきて必要な方にお配りしているんですけど、年度ごとに少しずつ内容が変わるんですよ。

**利用者** だんだん歩けなくなると、ここへも来られなくなっちゃうのかなあと思ったりしますが、なんか魅力的なイベントとかやってくれば、いいかなと思う。

**利用者** あとそれから、認知症カフェをひとつにまとめた写真入りの冊子もありますよ。ご自宅の近くにある認知症カフェを探しやすいです。

**図書館** 『ようこそ！街かどケアカフェ』のことですね？

**利用者** 図書館にそういった資料をひとまとめに置いてあるコーナーがあればいいと思います。

**図書館** 高齢者コーナーは、実は当館でも考えている最中です。区が作成した『高齢者の生活ガイド』などは、今、目につきやすい一階に並べているのですが、需要が高いです。認知症などの本は、それぞれの分野の書架に分類番号順に並べているのですが、それを1カ所にまとめて、関連する小冊子やパンフレットも一緒に置くと、必要とされる方には探しやすいのだろうなということはわかりますので、場所などを検討していきたいと思います。

**利用者** あと相談先も掲示してあげてください。

**図書館** 自分や親が心配なときが、一番不安ですね。

**利用者** さっきも少し触れたのですが、図書館の人に来ていただく出前授業みたいのを民間の施設から依頼することは、不可能なのでしょうか。

**図書館** そんなことないです。現在も定期的に練馬区立こどもの森に出かけて行って、青空紙芝居をしていますし、栄町敬老館で高齢者を対象によみきかせ講座をやっています。ご要望をお聞かせいただけたらと思います。

- 利用者　よみきかせ以外、子どもを交えてのおはなしもですか。
- 図書館　例えばブックトークなどもできます。
- 利用者　依頼すればできるのでしょうか。次の夏休みに向けて、ぜひ検討させていただきます。
- 図書館　対象の学年などを教えていただければ、年齢層に合ったものを企画します。
- 利用者　ありがとうございます。また、連絡させていただきます。
- 図書館　ほかに、子ども関連の団体さんはどうでしょうか。
- 利用者　練馬区には児童館が17館あるのですが、保育園の年長さんとか、幼稚園の年長さんに、そしてはじめて一年生になる保護者の方を対象に、昨年度から児童館長が、放課後の居場所として区内にはこういう場所がありますという紹介をするようになりました。私はそれより前からやっていた、その時は、使用許諾も得ずに、小竹図書館さんを紹介してもらっていました。子どもたちの居場所というところでは、学校内にもひろば事業というのをやっていて、冬場だったら4時まで、夏場だったら5時まで過ごせますよというのがあります。その中には、開放図書というのもあって、子どもたちは放課後、自由に本に触れられる機会があるのです。しかしそれらは学校の中ですから、児童書が中心です。ところが図書館の魅力は、子どものコーナーもあるけれど、大人のコーナーにも自由に行けて、大人のコーナーの本も自由に手に取って試みることができる点だと私は思うのです。たとえば電車が好きな男の子がいたら、大人のコーナーに行って、電車のことが詳しく書かれた一般書に触れられる。もちろん漢字は全部読めないのだけど、写真やビジュアルが知的好奇心を満足させてくれる、その大人の世界にちょっと触れられる点がすごくいいんだと思います。そういった意味でも常々図書館を紹介させていただいているのですけども、子どもたちは自分の居場所を探して、児童館が終わってから図書館に行くっていう子どももいます。図書館には子どもたちの居場所としての役割もあると思うので、いつまでも居心地のいい居場所であってくれたらいい、私はそう思っています。これは個人的なの思いかもしれませんが。
- 図書館　こちらからも質問させていただいたんですけど、先ほど学童保育の場所を作るために児童館の図書室を削ったと自己紹介の中でおっしゃっていましたが、学童保育は着実に増えているように感じます。やはり社会的な背景があるのでしょうか。
- 利用者　そうですね。増えています。保育園も増えていますが、待機児童も多い。そういう状況の中で、保育園を卒園したら、そのあとは学童保育に入れようと考えている方もすごく多いですね。しかしながら保育園を出たらすべての子どもたちが学童にスライドしていくかというところでもありません。保護者の方の就労要件によって、異なってくるのです。
- 練馬区の学童クラブは、区立の学童クラブは6時までですが、委託されている学



童は7時までです。そういった中で、何もそこまで預かってもらう必要はないという家庭には、ひろばがあったり、いろんな公共施設があるわけです。子どもたち、小学生の放課後の居場所は、地域のなかにあるってことを伝えたいのです。卒園イコール学童じゃなくて、図書館をはじめとする公共施設などは子どもたちの居場所になりえるわけで、そこを紹介したいです。

**図書館** 小竹図書館以外でいうと、例えばどこが該当するのでしょうか。

**利用者** この地域では、小竹図書館だけ。あとは学校の中のひろば事業とかをご案内しています。

**利用者** 塾とかも、学童保育代わりに、通っているお子さんがいらっしやいますよね。

**利用者** 練馬の方には、民間の学童保育とか、学校の正門まで迎えにくるサービスもあります。車に乗せて連れて行ったり、英語塾が学童保育的なことをやっていて、マイクロバスで各小学校を回りながら、子どもたちをピックアップして学童保育に運ぶところも出始めています。

**図書館** そこまで需要があるということですね。

**利用者** 家からひとりで学校に行くっていうのは、治安のいい日本だけみたいに聞いたことがあります。すると、こういうサービスも今後増えていくかもしれないですね。私には信じられないですが。

**利用者** そうですね、私もだんだん増えていくように思います。

**図書館** 子ども食堂も増えています。

**利用者** 個人的な印象としては、子ども食堂は少しピークを過ぎたのかな、と感じています。以前は、いろんな子ども食堂の担当者がパンフレットを児童館に置いてくださって、持って来られていたのですけど。もちろん、今はそこまで広報しなくても定着したのかもしれないですが、そういったチラシの配布依頼は少なくなってきました。

**利用者** 私が働いている学童保育は、夏休みや春などに、近所の子ども食堂から「学童保育のみなさんいらっしやい」とご招待をいただいて、ごちそうに伺うことがあります。子ども食堂のイメージというと、貧しい家庭とか、困っている人が行くところだと、テレビニュースなどではそういう報道のされ方をしたりしていますが、実際にはそうではありません。お母さん同士、「こんなことに困っているのだけど、どうしたらいいかな」と相談し合ったりもしていました。また、食堂のスタッフの方からも、「お友達を作るような場所になればいいなと思っています」と言われたので、イメージを一新させたいような思いがあるようですね。子どもたちもお母さん方も、その日は子ども食堂に行こうって楽しみにして、誘い合って行ける場所。それに料理もおいしかったです。

**利用者** 夕食ですか。

**利用者** そうです。学童保育として招待されたのがたまたまお昼だったのですけども、普

段は夕食です。

**利用者** 何時ごろから始まりますか？

**利用者** 詳しいことはわからないのですが、学童保育が終わってから、みなさんすぐ行かれるので6時ぐらいでしょうか。結構にぎわっていますよ。

**図書館** 新聞記事の取材のために小竹町を足しげく歩いてらした方などを講師にお呼びして講座をしたらといったご意見はありますか。特に歴史とかそういった分野で。

**利用者** いろいろ知り合いがいて、ここで講演してもらったら地域の方が喜んでくれそうと思える人は何人か知っているのですが、ぜひ推薦したいと思います。ところで、図書館あるあるかもしれませんが、今話題の本とか、新刊がすぐに手に入りません。借りに来ても、もう全然なくて。読みたい本を素早く手に入れるための裏技か何かあるのでしょうか。待ちが長すぎるように感じます。みなさんネットで申し込まれるのですか。

**図書館** そうですね。例えば好きな作家さんがいらっしゃるのなら、その作家さんのホームページなどを見ていて、「何月に新刊を出します」と書かれた情報をもとに予約する人もいます。図書館の本は普通、家のパソコンから予約ができるのですが、まだ出版されていない本については図書館に来ていただいて手続きするか、あるいは電話で予約していただくという方法になります。未所蔵の本は、何月に発売ですとわかった時点で予約を入れると、予約の順番も早くなるといえます。正直言いまして、新刊が大好きな人はいます。

**利用者** 新刊は何冊くらい、受け入れるのか。

**図書館** 例えば、人気作家の東野圭吾の場合ですと、新刊が出たら小竹図書館では2～3冊入れることもあります。

**図書館** 人気作家の新刊本の予約は1000人を超えることもあります。

**利用者** まずは予約する、それが読みたい本にたどり着く早道ということですね。

**図書館** そうですね。予約されるのが1番かと思います。

**図書館** インターネットで、区立図書館のホームページを開いていただくと、新着図書案内コーナーがあるのですが、それを毎日チェックしている方もいらっしゃいます。

**利用者** 先般ノーベル化学賞を受賞された吉野さんが、子どものころ先生に薦められてファラデーの『ローソク科学』を読んで感動したとインタビューで話していらっしゃったので、私はすぐに予約したんです。すると、予約がすごく早かったみたいで、私は1番目か2番目だったのですね。ところが、翌日にはもう百何人もの予約が入っていて驚きました。お借りしたけど、「早くお返ししないと次の人待っているわ」と焦って読みました。

**図書館** いい利用者さんですね。朝刊の記事下に新刊広告が出たりしますよね。朝一番に見て、「あ、この本が読みたい」と思ってすぐに予約を入れると、予約は一桁台、悪くても20～30番目だったりします。でも、朝忙しくて夜に入れようとしたら、

もう既に百何番になっていることがあります。やはり時間の勝負かなと。

**利用者** 私は図書館に期待するサービスとして、本当に乳幼児からお母さん、そして高齢者まで、何の目的もなくただ図書館に来ただけなのに、何かその人が欲しかったヒントが見つけれられたとか、本は楽しいものだなんて思える図書館であってほしいと思います。もちろん今もそうですけど、さらにそれを極めていただけたらと思います。それから認知症の方に対する支援も、認知症の本を並べるだけではなくて、図書館に来て、いろんな本を見て、そこから自分の読みたい本を選び取ることも、認知症の方にとっては、とても大事だと思いますね。30年の間に、図書館を取り巻く環境もすごく変わってきたので、ただ昔のように本を保存するだけでは物足りなくなってきた。きっとここにもさまざまな制約があると思うんですけど、私たちがここまでしていいのかなって思えるような思い切った活動をしてほしい。この地区のみなさんが自由に本を選び、そこから楽しさを見つける、情報発信の核になっていただきたい。これからもっと、館長さんをはじめ、さらに活躍されることを期待しています。

**図書館** ありがとうございます。さきほど交流を望んでらっしゃる子育て中のお母さんが多いというお話が出たんですけど、私たちも、例えばあかちゃんのおはなし会にいらっしゃったお母さん同士が交流できるよう、お部屋を開放して、いつ来てもいいですよ、自由にお使いくださいというようにできたらいいなと考えたりしています。しかしながら、小竹図書館は開放できるのがこの会議室だけなので、ちょっと厳しいんですね。ただ図書館も昔と比べるとずいぶん変わりました。ひと昔前なら、赤ちゃんを連れてくるのはタブーというように考えている人も少なくなくて、子どもが泣いちゃったらどうしよう考えて二の足を踏む人が多かった。今はブックスタートが縁になって来館される親子も増えました。現在は、おむつ換え台もありますし、授乳室も貸し出ししたりしています。赤ちゃんからおじいさんおばあさんになるまで、どうぞ図書館をご利用くださいね、という形に変わってきたのです。そして、さまざまな年齢層のみなさんにとって、居心地のいい図書館になればいいなと考えています。

**利用者** 私は新聞を読みに来ています。老眼になったので、本は読めなくなっているのです。

**図書館** 新聞は毎日読みに来られるのですか。

**利用者** スポーツ新聞ばかりです。難しい新聞は読みません。

**図書館** 新聞コーナーに来られる方は、大体常連さんが多いです。毎日来られている方も多いようにお見受けしていますが。

**利用者** そうですね。だいたい働いてないから、こういうところに来ています。暇つぶしだけじゃないのですが。

**図書館** なんかやっぱ、いろいろ変わってきていますね。これまで新聞は家でとっている方が多かったと思いますが、最近は図書館に来て、記事の読み比べをしている

という人もいらっしゃいました。図書館には主要な新聞はほとんどがありますから。

**利用者** 全部は正直、飽きてしまいますけどね。でも、やっぱり図書館にはいろんな新聞があったほうがいいです。

**図書館** 雑誌も、新刊が出たらすぐに読みに来られる方がいます。

**利用者** 私は昔、商売をやっていたから、忙しくて全然来られなかったけど、やめてから、「こんないい場所があったんだ」と気づきました。

**利用者** 30 周年ということですが、1 月にいつも本を紹介してくださるのがありますね。中に何が入っているかのわからないという。

**図書館** 「新春 ホンのお楽しみ袋」のことでしょうか。

**利用者** それです。あれで、「30 年前のベストセラーが入っているよ」とか。子ども向けだったら、「この年に流行った絵本はこれだよ」とかやってみてはいかがでしょうか。中身を隠しながら、30 周年を利用者にも意識させるのです。あれ結構楽しいですね。ミステリー系とか青少年系とか、コメントがカードに書いてあって、自分がいつも手にしない本とか入っているので、私はあのお楽しみ袋をすごくいいと思っているんです。ただ、いつぞや、新年あけにちょっと遅れて行ったら、もうなかったりしてがっかりしたことがあります。「新春 ホンのお楽しみ袋」ですか、あれ、すごくいいです。

**図書館** ありがとうございます。図書館で働くわれわれは本好きが多いのですが、自分が読んで面白かった本をお楽しみ袋ということで 3 冊セットにして英字新聞で包んで、展示しています。包みの外からは何が入っているかわかりません。ただ袋に貼ったカードに、「子育て中、とても大変な思いをしていたときに助けられた本です」みたいな、ちょっとしたヒントを書くんです。借りていく人は、何が入っているのか全然わからない。毎年 80～90 セットぐらい用意するのですが、初日に半分くらいはけます。楽しみしてくださっている方がいるのは、企画する側からすると、とてもうれしいです。

**利用者** 話は変わりますが、本の寄贈というのはできるのですか？

**図書館** できます。ただし、もうすでに図書館で持っている本などは、リサイクルコーナーに置いて、他の区民の方に提供することはあります。寄贈していただく方には、一応ご了解をとっております。

**利用者** 選別していただけるということで、何を持ってきてもいいのですか？

**図書館** 原則そうです。公共の図書館にふさわしいものでお願いします。

なお、閉架書庫がない小竹図書館の場合、書架に本を置くのも、なかなか競争率が厳しい。小竹図書館は、毎週 150、160 冊くらいの新刊本が入ってくるのですが、入ってくるだけだと、すぐ棚があふれてしまうので、その分、除籍しています。回転の早い本だと、4～5 年で除籍されてしまうので、図書館の本として生き残るの

もなかなか大変です。ご厚意で、読まなくなった本を持ってきていただくこともよくありますが、その本を入れるということは、その分、別の本を除籍しなくては行けないので、生存競争が起きています。

**利用者** 使わなくなった本やお役目の終わった本を、図書館の外に出すとか、利用者がいただいていけるとか。別の図書館ではやっているようですが、ここではやっていいますか。

**図書館** 随時行っています。1階の入り口には入って右手にリサイクルコーナーがありまして、そこで提供しています。そのコーナーにある本は、自由に持って帰っていただいていい除籍本です。去年はここでリサイクル本のフェアをやりました。一般利用者の方や保育園さんも見に来てくださって、お持ち帰りいただきました。

**利用者** そういうときに、家にある読まなくなった本を持ってくる方もいらっしゃるのでしょうか。

**図書館** そういう方もいらっしゃいました。

さて、そろそろ閉会の時間が近づいてきました。他にご意見はありませんか。

ないようでしたら、このあたりで閉会にしたいと思います。本日は貴重なご意見をありがとうございました。みなさまからいただいたご意見は、今後の図書館運営に反映させていきたいと考えております。今後もみなさまに愛される図書館を目指して頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。